

川越市更生保護女性会

第 15 号



あいさつ
会長 原田 菊子

間もなく設立
五十周年を迎え

ようとする伝統ある川越市更生
保護女性会の会長にこの度就任
いたしました。設立からこれま
で本会の趣旨に沿って明るい社
会をつくるために、熱心に活動
してきた、たくさんの会員の皆
様に敬意を表します。

いま社会状況を見ると、経済
成長の停滞によるリストラや雇
用問題、その陰には悪質な犯罪
が起きているのです。

こうした折、ここに本会の果
たすべき役割があると考えます。
アイデアを活かし、組織を動
かして明るい社会が少しでも実
現するように努めたいと思いま
す。そこで、会員の皆様のご理
解とご協力をお願いいたします。

終わりに、県更生保護女性連
盟、さいたま保護観察所、市保

護司会、その他関係機関の皆様
の日頃のご指導、ご支援に感謝
いたしますと共に、今後なお一
層のご指導を賜わりたくよろし
くお願い申し上げます。

平成二十四年度

川越市更生保護女性会総会

六月五日(火)、市役所七階の
会議室で開催され、八十名が出
席した。

市の栗原福祉部長、保護司会
丸山副支部長のあいさつの後議
事に入った。平成二十三年度の
事業、決算、監査報告の承認。
新役員の承認。平成二十四年度
の事業案、予算案の承認と順調
に進み総会は無事に終了した。

最後に今回で退任する小澤好
子会長よりあいさつがあった。
昭和五十五年に入会。以来長い
間熱心に活動し、会長に就任後
は良きリーダーとして尽力され
た。今後も本会への指導助言を
お願いしたい。



講師：羽柴繼之助氏

〔役員紹介〕

○会 長	原田 菊子
○副会 長	新井 とよ
○副会 長	井上 順子(兼理事)
○会 計	野崎 昭子
○会 計	田邊 純子(兼理事)
○書 記	松平 静江(兼理事)
○書 記	諸星すみ江(兼理事)
○監 事	長田たか子
○監 事	吉田 信子
○理 事	
上野 京子	小川 道子
三上 朝子	菊田 洋子
西條 裕子	藤崎 淑子
村川 はつ	田中 幸子
矢部美知子	宮根 順子
塩野 榎子	原嶋 敏子
塚原 紘美	水井 和江

演題「児童養護施設の子どもた
ち」～保護を必要とする子ども
の養育を考える～

講師 埼玉育児院理事長

羽柴繼之助氏

一、児童養護施設の仕組み

・児童福祉法で規定されている。
(建物の設備、職員の職種と人数、
指導の内容等)

・入所は児童相談所の行政措置
・入所費用は全額公費である。
(事務費と事業費)

二、児童養護施設の動向

・一九九七年の児童福祉法改正
・子どもの権利擁護と自立支援
三、施設の直面する課題

- ・家庭や子どもへの質の変化
- ・施設内虐待
- ・地域との関係改善
- ・処置の小規模化
- ・進路、高校中退者への支援
- ・職員の待遇の問題(民間)
- ・慢性的な財政難

埼玉育児院の子どもへの自立
支援は、一人ひとりの安全、安
心を基に子どもたちの主体性を
高める工夫をしている。また職
員の意欲の向上を図っている。
保護者との関係強化に努めたい。
最近地域の子育て支援を始めた。

社会を明るくする

運動に参加して

第十地区 松平 静江

七月二十八日、百万灯提灯祭で、車両通行禁止の中央通りは、大勢の人で賑わい、出店もあつて、大人も子供も、楽しげに行き交っていました。当日、社会を明るくする啓発活動で、うちわ配りがおこなわれました。

私も、十六時から三十分間、お手つだいさせていただきました。暑さまつさかり、すでに、あちこちで配られて、色々のうちわを手

にしている人が多い中、連雀町から仲町に向かつて歩きながら配っていると「なんのうちわですか」と寄ってきて、貰ってくださる方など、あつという間になくなって、最後の一本は、「着物をきましょう」という運動をしている方のすこし小ぶりのうちわと、笑顔で交換して、おわりになりました。

このような働きかけを毎年続けることによって、少しずつ世の中に、「社明運動」の意義が伝わっていくのかなと思いつつ帰途につきました。



西ブロック研修会

第九地区 西條 裕子

十月三日、十名で坂戸文化会館へ向かいました。午前中は「いいめなんかいらぬ」という東日本大震災のビデオ視聴しました。

被災にあつた子供達が日常の困難さ、幸せ、命の大切さを痛感し、いつ失うか分からない命の重さ、生きている事の有難さに気づくと、いじめは無くなると結ばれていました。

続いて、さいたま保護観察所長が「期待される更女活動」を講義されました。ミニ集会を重ねる中で地域におけるコミュニケーションを高め、地域に根をおろし更生保護の心を広め、社会復帰させる地域社会作りが重要と話されました。午後はミニ集会が四つのテーマに分かれて行われその後全体のまとめ意見発表がありました。私達は「更生保護女性会の地域へのアピール、各種団体と連携を図るには」でした。各地区との意見交換で、各種行事への積極的参加、青少年を育てる会、保護司との連携が大切との結論に達しました。充実、かつ、有意義な一日でした。

ふれあい福祉まつりに参加して

霞ヶ関地区 里村 広美

五月十三日快晴。今日はふれあい福祉祭りです。沢山の方が来てくれる予感がします。私達更生保護女性会は受付を引き受けました。広い会場を二手に別れて今日のプログラムを配ります。

「おはようございます。楽しんでいてくださいね。」と笑顔で渡すと「おはようございます。」と笑顔が返ってきます。

広い会場も十一時を過ぎた頃から混雑しはじめました。行きたいブースがわからず訪ねてくる身障者の方が増えてきました。「ご案内します。」と笑顔で話しかけるとホッとされます。伊佐沼公園の中心をおしゃべりしながら進んでいくと目的のブースが見えてきます。皆様足早になり「ありがとうございます。」と手を振って別れていきます。沢山の方との出会いがうれいワクワクした一日となりま

なりました。



ふれあい福祉まつり

中堅会員研究協議会

第三地区 横山恵美子

十一月十九日、さいたま共済会館で、平成二十四年度中堅会員研究協議会が開催され、県内から二百八十一名、川越からは十二名が参加いたしました。

齋場保護観察所長、金澤県更女会長の挨拶の後、中央研修会関東地方研修会に参加された、飯能、久喜、本庄、川口の地区会長の報告がありました。

次に、長年、保護観察の仕事に携われ、現在も保護司をされている、山田憲児氏の講話が、「出あい、触れあい、助けあい」という演題で行われました。今の社会は、自己中心的人を信じられず、孤立化している人が多く、そのために犯罪やいじめ、虐待、自殺、ひきこもり等が増えている事、罪を犯した人たちの更生への道が容易ではない事などが説明されました。私たちが更女の活動が、周りの人たちに少しづつでも理解してもらえるように「罪を憎んで人を憎まず」「人は変わる」という認識を持ち、地道に活動が続けていこうと改めて感じました。「人はみな生かされて生きている」この言葉も忘れずに……。

四地区交流会に参加して

第七地区 三上 朝子

十月九日、富士見市針ヶ谷コミュニティセンターに於いて、川越、坂戸、ふじみ野、富士見市より十名ずつ参加して四地区交流会が開催されました。午前には「最近の少年非行の現状について」東入間警察署草薙補導員による講演、少年犯罪の中で窃盗犯が60%と一番多いという話から始まり事例をいくつかあげた中で、埼玉県は、全国ワースト四位という残念な報告もありました。最後に「地域の子供は地域の目で」という言葉で締めくくられました。地域の大人達が、他人



四地区交流会（富士見市にて）

事ではなく見守れる環境が出来たらよいのかなと思います。昼食を挟んで他地区会長の活動報告、その後各テーブル毎の意見交換、やはり愛の募金活動に苦労されている意見が多く出ました。この話し合いの中で会員の構成が地区によって違うことがわかりました。民生委員でない人が自主的に、地域で活動している様子でした。初めての参加でしたが、女性部会らしい心遣いを感じる交流会でした。

川越少年刑務所の諸行事参加

誕生会に参加して

大東地区 矢部美知子

七月十二日、川越駅まで迎えに来ていただいた送迎バスに乗って、お誕生会に行きました。到着し、刑務所の現状について伺った後、講堂に入りました。中ではすでに七月生まれの方達がキチンと座って居り、私達を待っていた様子が感じられて蒸し暑さと緊張感とで、汗がドツと出てきてしまいました。

指示に従って、「お誕生会、おめでとう、何才になったのですか？」一人一人に短いながら声

をかけ、ココアを注ぎました。十九才、二十才、二十三才、と本当に皆、まだこれからです。彼らが無事生まれた時、両親はホッとすると共に、健やかな成長を願ったと思います。今は少しまわり道をしているかもしれませんが、新しいスタートを切る為の、一日一日を大切に過ごして欲しいと思っています。

川越少年刑務所の盆踊り

霞ヶ関北地区 水井 和江

連日記録的な猛暑が続く中、七月二十五日、川越少年刑務所において、盆踊りが開催されました。私は、久しぶりにゆかたに袖を通し、所内の行事初参加となりました（原田会長他三名参加）。川越駅で待ち合わせ、関係団体の皆さんとともに、マイクロバスで移動しました。長い廊下を渡り広いグラウンドに出ると、そこには、それぞれの着こなしで全員がゆかたを着付けて、幾重にも輪を作り整然と並んでいる千人を超える青少年達が迎えてくれました。所長、県更女会長、来賓の方々の挨拶では、前年の3.11東日本大震災の教訓を踏まえた、人と人との絆の大

切さを強調した話をされました。踊りは、練習を重ねた様子が窺がわれ、上手に楽しそうに踊っている輪の中に合流し、笑顔の皆さんの更生を願う夕べとなりました。

体育祭に参加して

第六地区 井上 順子

今年のキャッチフレーズ「心技・体・今こそ見せるぞ若い力」のもと十月二十四日、川越少年刑務所秋季体育祭がとり行われました。

ぬけるような青空で体育祭日和となりました。約七百名余りの若者達が、大声を張り上げて応援する姿はどこにでもある運動会の光景でした。

今年から新競技にボール抱え競争、背中合わせリレーがありどれも、二人で息を合わせ、思いやり、ゆずりあって行動しないと成り立たない競技です。これはまさに社会生活に必要な事です。

練習に一ヶ月、きびきびした行動、必死に駆けてバトンを渡す、協力し合ってボールを運ぶさまは見ている私達の心を熱くさせてくれました。

医療少年院訪問研修

高階地区 田中 幸子

秋晴れの十一月二日、東京都府中市の関東医療少年院の訪問研修に参加致しました。昭和二十四年設立。昭和二十六年病院として承認され、全国では二ヶ所。

東日本における少年院の医療センターとして、男子及び女子の少年に対して、専門的医療と教育を行う広域収容施設となりました。この施設では一人の少年に対して、医師、看護師、教官の三者が連携して治療、教育に当たっているとの事でした。収容少年の特徴と傾向として近年は精神疾患が身体疾患より増加し、又入院者の病気への認知度の低さが、教育指導のむずかしさを表わしているとの事で、生活指導の中「やさしさや不純交友、働くことの意味、家族の問題」をどう解決していくか等お話を聴き、日々奮闘されている姿に頭の下がる思いでした。

生まれた時は皆「無垢」、家庭環境や社会情勢の中で、一人一人の背負うものが違いを生み出しています。基本的な家庭教育をしっかりと導いていかねばと改めて考えさせられた一日でした。

代表者実務研究会に出席して

会長 原田 菊子

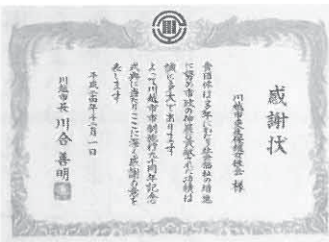
埼玉県更生保護女性連盟主催代表者実務研究会は、二月二十一日、長瀬町の長生館で開催され、県下四十五地区から地区会長を含む二名、合計九十名が参集した。川越地区は、私原田と井上副会長が出席した。

ここでは次年度に向けての活動計画が具体的に協議される。

先ずモデル地区の中間発表があり、ミニ集会「さいたま浦和、子育て支援地区活動」久喜の活動内容が大変参考になった。ブロック別研究協議会では、ローテーションでミニ集会「子育て支援」ブロック研修会等の分担について協議した。平成二十五年度親業訓練講座は川越市、西ブロック研修会は富士見市と決まった。

川越市より感謝状

平成二十四



年十一月一日、川越市市制施行九十周年記念式典が市民会館大ホールで行われた。

本女性会は、川越市発展に貢献した団体として川合市長より感謝状を授与された。

受賞おめでとう

『第五十九回埼玉県更生保護大会』

十一月二日 埼玉会館

○法務大臣感謝状

小澤 好子

○さいたま保護観察所

加藤 節子

○埼玉県更生保護女性連盟

田中 幸子

○会長表彰

加藤 道子

小嶋 茂代

上野 京子

中学校へ愛の図書費贈呈

九月二十五日(火)、原田会長

とともに担当地区理事が同行し、霞ヶ関中、霞ヶ関西中、川越西中、霞ヶ関東中を訪問し、愛の図書費を贈呈してまいりました。生徒たちの明るい挨拶や廊下の掲示、花壇に植えられた花や行き届いた掃除から、しっかりと教育に取り組んでいる様子がうかがわれました。校長先生から生徒や学校の様子を伺い、子供たちの健やかな成長を祈りつつ学校を後にしました。

愛の募金

募金総額 — 747,000円
県更女連盟 — 224,000円
地区活動費 — 523,000円
上記の通りご報告いたします。

会計 野崎 昭子
田邊 純子

編集後記

今年は遅い春なのに身の凍るような事件が続いたこの頃でした。やつと梅もほころび、心にも少し春が来ました。一年のまとめの更女たよりをお届けします。

会員の皆様にはご多忙の中、心よく原稿をお寄せ下さいましたことを感謝致します。又編集に当りましては、今年度から理事全員が各委員を与えられ七名の広報委員が担当して新米ぞろいでしたが、ベテランの原田会長の御指導で完成できました。皆様の今後の活動の糧となれば幸いと存じます。

編集委員

原田 菊子 塚原 紘美
塩野 槇子 宮根 順子
原嶋 敏子 水井 和江
田邊 純子